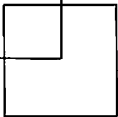




第一章

村田学園のあゆみ



村田学園の萌芽

商業教育のあけぼの

明治時代の教育事情

村田謙造が村田学園の礎を築いた明治時代の後期は、政府が統一国家を目指し、政治、経済、教育などをはじめあらゆる分野での「近代化」という目標が達せられた時期であった。

明治四年（一八七二）、文部省が設置され、教育行政の統轄により一年後には「学制」が頒布（注1）された。その基本理念は、「学問は身をたてる元手であり、武士のみではなく、農・工・商を営む人、あるいは婦女子にも等しく、実際に役立つ学問を身につける」という、言わば「実学の勧め」であった。学制が發布され、欧米の教育制度を模範として、先進諸国の学問・思想を導入した教育機関が設立された。しかし、この学制に謳われた商業を主体とする教育機関は一校も設立されず、単なる規定にすぎなかった。

模索を続けた教育体系

近代的な「国民」をつくりだす目的の学制ではあったが、定着するに従い、国民生活においてはあらゆる面で負担を強いる結果になった。そこで政府は、明治十二年（一八七九）に学制を廃止して、新たに「教育令」を公布した。教育令は小学校、師範学校に関する規定が主であり、それ以外の学校についてはほとんど触れておらず、実学からはさらに遠のいてしまった。

商業教育が中等教育のなかで浮上したのは、明治一七年の商業学校通則であった。通則では商業学校を第一種と第二種に分類し、第一種は自営業に従事する人、第二種はさらに高度な商業教育を身につける人を目標としていた。従って入学年齢も第一種は一三歳以上、第二種は一六歳以上とした。

明治一九年（一八八六）には教育令を廃し、帝国大学令、師範学校令、小・中学校令、諸学校通

（注1）頒布
法令などを世の中に広く行き渡らせようすること。

則などが公布^(注2)された。この小学校令により、はじめて小学校の就学義務化が実現したのであった。この法令により、学制での学校体系が整うことになったが、その後の教育令の改正を重ねることにより、さらに教育改革が推進されたのである。

実業学校令の公布

明治二六年（一八九三）になると、産業の発展に伴い、実業補習学校が誕生し、実業教育の拡充が進むことになった。農業・工業・商業などの補習学校が小学校に付設されたが、農業以外は振るわなかった。その後、明治三二年に中学校令の改正とともに商業学校通則も廃止され、新たに実業学校令が公布された。実業学校令は「工業農業商業等ノ実業ニ従事スル者ニ須要ナル教育ヲ為スヲ以テ目的トス」と規定し、実業学校的重要性を打ち出したものであった。実業学校令に基づく商業学校規定によれば、中等実業学校はこれまでの一種・二種を廃止し甲・乙の二種が置かれ、甲種は一四歳以上、乙種は一二歳以上で、前者は高等小学校、後者は尋常小学校卒業程度の学力を要した。また、この時期に私立学校の設置が奨励・認可されるようになり、商業学校は急速に増えて

いった。

遅々として進まぬ商業教育

明治二七年（一八九四）から翌年にかけての日清戦争は、第二次産業の発展に拍車を掛けたが、同時に日本資本主義を形成し、日露戦争（一九〇四～〇五）への嚆矢となった。文明開化や産業の振興が図られ、商業学校が増加したにもかかわらず商業教育の遅れは否めなかった。特に都市部では、伝統的な徒弟制度や丁稚制度が名残をとどめていたからである。

商家では自己の財産を管理運営する手段として江戸期からすでに現在の複式簿記に相当する会計処理法が行われていた。複式簿記は明治初期に外国から導入されたものであるが、普及にはかなりの時間を要した。工業の発達に商業に先行したが、商家の近代化が進むにつれ、近代的商業教育機関（明治七年の大蔵省銀行学局、明治八年の商法講習所など）や甲・乙商業学校の科目に取り入れられ徐々に浸透してはいくものの、銀行員、会社員、商人の一部にとどまった。明治四五年までに、甲乙合わせて約一〇〇校に及ぶ商業学校が誕生しているが、だれもが簡単に入学できる環境で

(注2) 公布

法令などを公衆して一般の人に知らせ、その拘束力を発揮できるようにすること。

はなかった。また、明治四〇年代の職業別人口の統計をみても、農林業六一・七パーセントに対して、商業は九・五パーセントにとどまり、商業人口の少なさも商業教育の発展を妨げる一因であった。加えて「士・農・工・商」という江戸時代の基本的身分制度も根強く、商業教育無用論さえはびこっていた。日露戦争以後、国家財政の赤字が国民生活にまで響き、明治四〇年以降の恐慌がおよそ七年間に及ぶことも相まって、この時期は官民ともに窮地に追い込まれた。

産業の巨大化、疲弊する農村、様々な社会的混乱など、文明開化と改革の推進がもたらした時代の負の部分が表面化した暗い時期であった。

銀行会社事務員養成所の創立

簿記会計の普及を目指して

村田謙造が私塾「銀行会社事務員養成所」を開いたのは、明治四二年一月である。

設立趣旨は

簿記会計の知識技能を国民常識として普及すること

であった。場所は、神田区一ツ橋通町二〇番地にある私立春育小学校^(注3)の校舎を借用した。この小学校は二軒続きの洋風木造二階建てで、当時は空き家になっていた。その南側二階建てを銀行会社事務員養成所が、また、西側二階建てを「私立中央工学校^(注4)」(当時)が借り入れ、両校はほぼ同時に開校を見た。

一ツ橋通町は、一番地から二二番地まであり、一本の道路を挟んで二つの区画から成っていた。

一番地が一区画を構成し、そこには高等商業学校があった。二番地からの区画には、高等師範学校附属学校と音楽学校分教場が並び、二一番地には帝国教育会(現・日本教育会館)、さらに二二番地には共立女子職業学校(現・共立女子学園)があるという、言わば教育の町であった。

生徒で溢れた二〇坪の教室

銀行会社事務員養成所の授業料は四円、美土代町にあったほかの簿記学校の授業料が一円五〇銭だったというから、謙造には心中ひそかに期するところがあったに違いない。折からの不況で、生徒募集も困難な時代と思われていたが、授業を始めてみると、間もなく注目を集めるようになり、

貨幣価値の概算表

明治42年	当時の10円	現在の貨幣価値に換算すると…	約36,000円
大正2年			約34,000円
大正10年			約13,000円
昭和6年			約25,000円

(注3) 私立春育小学校
校長、小山雲璽(雅号)
当時木造二階建て、一〇教室、
約五三五平方メートル

(注4) 文部省令により、明治三十四年から大正八年まで、私立学校は「私立の文字を冠するもの」とされた。よって正式の校名には「私立」の二文字を付けた。
また、明治四二年当時、文部省訓令により校舎の新築は自費するように通達されていた。

生徒は日を追って増加、延べ二〇坪の教室は常に満員の盛況を呈していた。

のちに謙造は当時をふり返って

小さな建物で、あとからこしらえた学校が四円。私には自信がある。腕で来い、ソロバンでも簿記でも腕では負けないからと、そのウヌボレでね。普通はやれないでしょう。

と真情を吐露している。（昭和四一年度、村田簿記学校、卒業式式辞）

人格を磨く師弟一体の教育

また、謙造は簿記・珠算を教授するのみではなく、「人格を磨く」教育の必要性を感じていた。そのため銀行会社事務員養成所は、寄宿制をとった。やがて地方からの入学者も増え、寄宿舎に入りきれない生徒は自宅に下宿させ、文字どおり寝食をとにした師弟一体の教育が行われた。

当時のもようを卒業生、木村留七氏は次のように語っている。

昔は国民皆兵で男子二〇歳になれば徴兵検査を受け、甲種合格者は否応なしに兵役に服さなければならず、したがって兵役を終えてから生涯の仕事につくというのが一般的でし

た。私も除隊にあたり「さあ、なにをやるか」と思っていた折にちょうど「銀行会社事務員養成所」の看板が目にとまり、さっそく訪ねてみました。当時の先生はまだ三〇歳そこそこでしたが、いろいろと話をうかがっているうちに「師につくならこの先生だ」と惚れ込み、さっそく入門しました。

謙造先生は郷里の松下村塾にならい、全寮制で生徒と起居を共にして、学問と共に人間としての生き方を指導されました。規律正しい日常生活は、軍隊で経験済みでしたから、さほど苦にはなりませんが、簿記と商事諸般の勉強はかなりきつく大変でした。

また、朝起きてから夜寝るまでいつも先生と一緒に、学問以外のことも全て先生仕込みで、卒業の頃は先生の分身の如く、することなすこと、考えまで先生によく似てしまいました。（学父村田謙造先生を偲ぶ会「亡き先生を想う」）



謙造が奨励した自彊術(じきょうじゅつ)

激動の時代と共に

ソロバン(算盤)の普及に尽力

大正時代に入ると、第一次大戦の勃発とともに日本資本主義経済は飛躍的な発展をとげた。とくに重化学工業がいちじるしく成長した反面、西欧文明の模倣にすぎない明治文化に対する疑念が広がっていった。

産業の発展にともない、にわかに必要性をおびてきたのは「財務会計」を基幹とする商業知識であった。福沢諭吉が翻訳・出版した簿記書の先駆とされている「帳合之法」に登場する「算用」(算勘を精細、確実にし、経理を誤らざること)を実践するには、正確ですばやい「計算力」が重要になってくる。江戸時代の町(商)家の子供達は寺子屋に通い、手習いを中心に、「読み・書き・ソロバン」の基礎教育を受けていたが、明治の学制では算盤は姿を消し、のちに復活はしたもののそれが尾を引いて算盤の普及は遅れていた。

とくに都市部での遅れはひどく、町(商)人の見栄と何よりも良い指導者の数が極端に少ないの

が一因であった。

そこで謙造は、計算術の練習の奮起と算盤活用の必然性を呼びかける目的で珠算奨励会をつくり、第一回珠算競技大会を開催した。その努力が結実し、大会一ヶ月後には「村田速算学校」の併設に至った。

村田簿記学校開設と関東大震災

大正一〇年四月、銀行会社事務員養成所は神田区仲猿楽町に新築移転し、校名を「村田簿記学校」と改称し開校した。手狭になったこれまでの校舎からの脱却であった。やがて、「公私の会計担当および実業に従事せんとする者のために、簿記・会計・珠算・税務に関する知識技術を授け」とともに、実社会における必要な教育を施す」という目的が、商業の近代化を望む当時の社会に浸透していき、入学希望者は増加の一途をたどったのであった。

隆盛を極めた村田簿記学校ではあったが、大正一二年九月一日の関東大震災には打ち勝つことができなかった。マグニチュード七・九の震度とちようど昼食時であったため、同時に発生した大火災とで南関東一円を中心に大きな被害をこう



大正14年珠算競技大会

むった。焼失家屋四万七〇〇〇余戸、倒壊家屋一二万戸、死者一〇万余名という恐るべき数字を残した。当日は土曜日だったため、生徒はほとんど登校しておらず、人的な被害や校舎の全壊はまぬがれたが、わずかな重要書類を運び出すのみで灰燼に帰してしまった。

政府はこの未曾有の大災害に対し、震災復興計画を遂行したが、政治、経済、社会に与えられた打撃はあまりにも大きく、各方面は混乱をきわめていた。そんななかにあつて、村田簿記学校は、一年一ヶ月後には木造二階建ての校舎を再建、授業再開に漕ぎつけたのである。

神田に新校舎設立

時代は昭和に移り、昭和二年三月から始まった金融恐慌によって景気はますます悪化した。しかし、謙造はその頃二つの大きな計画を立て実行に移していた。一つは新校舎の建設と、二つ目は女子教育を目的とした新学校の創設である。

村田簿記学校は、昭和四年一月仲猿楽町一七番地から一番地に移転し、近代的な三階建てコンクリート校舎を新築、拡張させた。この校舎は生徒を本位とする考えから、創立者自らが設計した

ものであり、神田界限での一大偉観であったという。当時の時代背景を考慮すると、まさに「不屈の精神力」と言えよう。

女性の社会進出を支援

大正末期から昭和の初頭にかけて、中等教育を目標とした商業学校の増加がみられる。商業教育に対する認識を新たにした政府（教育界）の方針転換によるものと思われる。甲種については文部省直轄的な色合いが濃かったが、乙種商業学校の許認可権は知事であった。

女子教育が制度上で確立したのは、明治三二年の高等女学校令である。高等女学校の入学年齢は高等小学校卒業程度と規定され、中学校と同等ではあったが、教育内容に差異が生じ入学者は多くはなかった。良妻賢母を育てるという方針から、修身、道徳、裁縫などが占める時間が多かったためである。

女性の社会への進出、職業的自立を望む風潮が盛んになってはきたが、養成機関は女子師範学校のみと言っても過言ではない時期であった。

そこに、独自性のある発想をもった「私立の専門教育機関」が登場した。明治三二年頃から活発



昭和4年新築校舎

に活動を展開した私学の女子教育機関は、現在の女子大学にその歴史を残している。

村田女子計理学校開校へ

謙造はかねてから「新時代の女子に必須な経済知識と計理上の技術とを修得させ、家庭に、職場に、修養と手腕と実行力とを具備する練達有為の婦人を養成する」ことを念願としていた。そこで、親交があり、女子職業教育の草分けとして知られる嘉悦孝氏の助言と勧めもあって、女子職業学校の設立に踏み切った。村田女子計理学校は村田簿記学校に併設され、昭和六年四月に開校の運びとなった。

開校当時の入学案内を見ると

修業年限 四ヶ年制女子商業

入学資格

第一学年は尋常小学校卒業者、
第二学年は高等小学校または高等女学校各一年修了者、第三学年は高等小学校卒または高等女学校二年修了者

募集人員

第一学年一五〇名、第二学年若干名、第三学年若干名

となっている。明治四〇年に小学校令が改正とな

り、この頃は尋常小学校（義務教育）六年、高等小学校二年となっていた。この学校は、村田簿記学校女子部的な存在であったが、昭和八年、東京府知事より乙種女子商業学校としての認可を受け、より学校としての体を成した。

尾崎罌堂から贈られた「有算者勝」

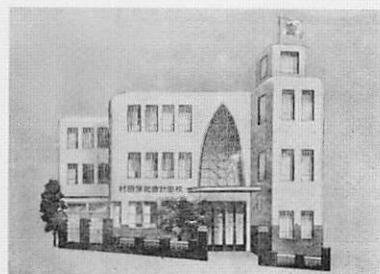
村田女子計理学校を開校するにあたり、孤高の政治家として名高い尾崎罌堂（行雄・一八五九～一九五四）から謙造に「書」が贈られた。墨痕鮮やかに「有算者勝」（算あるは勝つ）としたためられていた。謙造の座右の銘となるとともに、この言葉はその後村田学園の信条の一つとして現在も受け継がれている。

戦渦を耐えた不屈の精神

苦難で迎えた創立三〇周年

創立三〇周年を迎えた昭和一四年、村田女子計理学校は小石川区久堅町に新築移転した。（注5）

久堅町一帯は江戸時代には松平播磨守の屋敷やのちに小石川植物園となる白山御殿（五代將軍綱吉



昭和6年当時の村田簿記学校

（注5）明治一二年、郡区町村編制法により、神田区、小石川区など一五区が誕生。昭和七年、渋谷、杉並など新二〇区をつくり、東京市は三五区となる。現在の二三区に編成替えしたのは昭和二二年である。

昭和一八年には、東京府・東京市を廃止、東京都が置かれた。

昭和四一年四月一日、町名変更により文京区久堅町は文京区小石川五丁目となる。

の館）などがあり、由緒のある土地であった。女子の職業教育に新生面を拓き、特異な教育活動が続けてきた学校にとってはうってつけの場所と言えるよう。

日本は、昭和一二年からの日中戦争を経て太平洋戦争へと「動乱の時代」に突入する。昭和一六年には軍国主義教育の象徴とまで言われた国民学校令が、また昭和一八年には中学校令がそれぞれ公布されるに及んで、教育理念は急速に変化していった。教育内容にも変化がみられ、例えば体操という教科には武道が必須として導入された。当時の女学校では「なぎなた」「一辺倒であったが、謙造は全国に先駆けて「剣道」を採用した。このことは、女子教育においては画期的な試みであった。

村田女子商業学校に改称

昭和一八年、太平洋戦争はさらに国民生活を困窮に追い込み、切迫の度が高くなった。この頃から

ら食料難の深刻化、徴用制度の強行、学徒動員、学童疎開などが行われるようになった。

この年、謙造は組織を財団法人とし、学園は磐石となった。また、村田女子計理学校は教育内容や施設などを勘案され、文部省から甲種女子商業学校として認可を受け、乙種から甲種に昇格し、同時に「村田女子商業学校」と改称した。

東京大空襲

戦時下では労働力の欠乏を招き、生徒も学生も男子は重工業へ動員され、女子は事務系の仕事に参加した。このような戦時体制一色になると、全ての中等教育を施す学校は開店休業状態になり、自然休校あるいは閉鎖の止むなきに至った。しかし、村田簿記学校は傷痍軍人の委託生を積極的に受け入れ、孤塁を守ったのであった。

ところが、昭和一七年から始まったアメリカ軍による東京への空襲は、終戦を迎えるまでに五〇回を超え、東京中が焦土と化してしまった。



昭和14年完成村田女子計理学校校舎

開花する村田学園

終戦、そして復興へ

再建を支えた生徒の高い向学心

「東京大空襲」^(注6)ではまぬがれたものの、その後の空襲によって四月一日に村田簿記学校が、五月二五日に村田女子商業学校が焼失した。謙造は自宅を臨時生徒集合場所とし、村田簿記学校に開放した。また、村田女子商業学校は本郷真砂町の工場跡の倉庫を集合場所に決め授業を行っていたが、その後学校疎開を計画、記録によれば疎開希望者は一五〇名となっている。この人数から、縁故疎開で日ごとに人口が減っていくなかで、縁故先がないなどの理由でまだ多くの生徒たちが学びながら仕事に従事していたことがうかがえる。しかし、この疎開計画は、荷物を取りまて疎開先の新潟へ発送した途端に終戦となり、実行されることはなかった。

情熱で再建した村田簿記学校

終戦となり戦争そのものは幕を下ろしたが、日本経済は壊滅的な打撃をうけ、生産の停止による物資の不足、食料難、急進するインフレなどにより、国民は耐乏生活を強いられた。村田簿記学校がようやくの思いで二階建ての校舎を再建し、校長宅から移転したのは昭和二年一月であった（村田女子商業学校も同居し授業を継続）。また、村田女子商業学校の木造平屋建ての校舎が完成し、自前の校舎で授業再開のめどが立ったのは翌二三年三月のことである。

謙造は、西片町にあった自宅を売却、さらに資金を集めてそれを全て校舎の建築に注ぎ込む、正に「茨の道」であった。のちに

計算を立ててみてからでは恐ろしくて再建などに着手できなかったと思う。ただ、学校を再建したいという一念だけでやってきたと語っている。



昭和23年改築した村田簿記学校

(注6)「東京大空襲」とは、昭和二〇年三月九日深夜から一〇日にかけての空襲を指す。

学校法人「村田学園」誕生

戦後教育の特色は、昭和二十二年三月公布の「教育基本法」と「学校教育法」ならびに同二四年一二月に公布された「私立学校法」に示された法体系と精神であろう。学校教育法では、これまでの学校関係法令が学校の種類によって細かく分かれていたものを一本化し、さらに専修学校、各種学校についても規定を明示している。^(注7)

また、戦前の学校制度では、官公立学校が主であり私立学校は言わば従の存在であったが、「官公私立の学校間に何等本質的な相違は存在しない」(教育使節団報告書)との趣旨が生かされた。そのうえ、「私立学校の基礎を確実にするには、学校経営主体の健全な発達を助成し、これに公共的民主的性格を付与するため、これを民法法人とは別個の特別法人とすることが望ましい」と、当時の教育刷新委員会が述べた言葉も裏付けされている。これにより、村田学園は昭和二十三年三月に財団法人から「学校法人村田学園(中学校・高等学校)」に改組し、同時に村田女子商業学校は「村田学園高等学校」と改称することになった。後期中等教育が基本的に「高等学校」と

して統一されたことによった。

村田女子商業高等学校開校

昭和二十六年四月、村田学園高等学校は「村田女子商業高等学校」と名称を変更した。昭和二十三年公布の高等学校設置基準第六条の専門教育を主とする学科のなかで商業に関する学科は「商業科」と明記されており、また、単一学科しか持たない高等学校の場合、校名に学科名を入れることがアピールポイントにもなるためであった。

村田女子商業高等学校が昭和二十八年から同三二年にかけて校舎の増築を続けるなか、村田簿記学校は校舎を拡張するため神田神保町一―一にあった万崎ビルを同三一年に取得した。鉄筋コンクリート耐震耐火構造の、地下一階、地上五階建てで、周辺の建物よりはるかに大きかった。東南に皇居の松の緑をはじめ、官庁街の方塔、山手から下町一帯にかけての屋並みなどを一望に収めることができた。

学園の拠点はここに移された。

(注7) わが国の教育制度では、小学校教育が「初等教育」にあたり、中学校と高等学校の教育が「中等教育」にあたる。大学、大学院、短期大学が「高等教育」と解されてきた。専修学校等の専門的・職業的教育機関も大学とは目的・性格が異なっているが、今日では高等教育に含めている。

隆盛で迎えた創立五〇周年

第一回全国珠算競技大会開催

昭和三四年、戦後の混乱期は過ぎさり国民生活は高度成長期を迎えようとしていた。この時代の特徴は、各種の学校設立が増加したこと、それに伴い義務教育後の就学希望者数が極端に増えたことであろう。この年村田学園は五〇周年を迎え、学園初めての盛大な記念行事を共立講堂で挙行了した。式典後のアトラクションでは、当時のラジオ長寿番組の公開録音をはじめ豪華絢爛たる舞台が繰り広げられたが、注目すべきは「第一回全国珠算競技大会」の開催である。広く全国から達人たちが集い、参加者は七〇〇名近くに及んだ。この大会の後援は、東京都、日本商工会議所、産業教育振興中央会、全国商業高等学校協会、全国経理学校協会、読売新聞社、日本経済新聞社などそうそうたるメンバーで、いかに多方面から関心が寄せられていたかが分かる。この大会は、その後六〇周年、八〇周年の記念行事として三回開催された。

木造校舎から鉄筋校舎へ

創立五〇周年を機に、六〇周年に向けての学園としての大計をたて、徐々に実行していった。まず、村田女子商業高等学校が昭和三十六年に創立三〇周年を迎えるにあたり、これまでの木造校舎を取り壊して新校舎を建設することであった。これは計画どおり進行し、昭和三十六年一月には四階建て鉄筋コンクリート造りの新校舎が小石川の地に完成した。校舎に通じる道は戦前は細い道であったが、戦後の道路拡張計画により春日通りから千川通りにぬける坂道は幅員が広がり、坂上から見た校舎はひときわ異彩を放っていた。この校舎は、二期工事、五階部分の増築、体育館新設などを重ね、昭和四十二年四月に完工した。

北軽井沢高原寮建設

一方、北軽井沢高原寮の建設計画も進められていた。特に村田女子商業高等学校においては、早い完成を望む声が多かった。



昭和38年完成
簿記学校校舎

昭和36年完成
高等学校校舎



この学校では、例年夏の行事として「山旅」「海の学校」「高原の集い」が開かれ、希望する生徒たちが参加していた。そのなかで高原の集いは、群馬県北軽井沢に近い酪農を営む兼業農家の離れ屋を借りて実施していた。

昭和三五年四月、長野県・新軽井沢駅と群馬県・草津温泉駅を結ぶ草軽電気鉄道が一部廃止となり、路線周辺の土地は別荘地として販売された。逸早く村田学園は北軽井沢駅から約一キロにある区画を購入、昭和三八年八月にはテニスコート二面を含むグラウンドが完成し、同四〇年七月には待望の高原寮が竣工した。村田簿記学校高等課程と高等学校の生徒たちが、毎夏クラスごとの合宿やクラブ活動の合宿に利用している。寮がつくられた当時は、廃線後の線路跡が寮舎の横に残っていた。寮は木造二階建てで、あえて山小屋風の設計を採用し周りの風景に溶け込んでいる。卒業生も利用できるようにと、別棟に同窓会館も建築した。

創立六〇周年

（二一世紀に向けた教育を）

坂田道太文部大臣からの祝辞

昭和四四年一〇月九日、創立六〇周年記念式典が共立講堂で挙行された。この式典が特出していたのは、当時の坂田道太文部大臣が、自ら進んで来賓として出席したことであろう。一私学の式典に現職の大臣（特に文相）が列するのは、異例なことであった。祝辞で文相は

私のこれからの二一世紀に向かう教育のあり方というものは、その年齢に応じ、そしてまたその能力に応じ、またその特性に応じ、それぞれの段階において教育をすることが肝要かと考えておるわけでございまして、特に公立教育における画一的教育というものを排しまして、私学が持っておりますところの特徴ある特性ある学校教育ということに着眼をしなければならぬと思うのでございます。

と述べている。祝辞は文字に書きあらためると、三〇〇〇文字を超す長さとなり、学園に対する熱



坂田道太文部大臣祝辞

50周年記念祝典
(共立講堂)



のこもった応援であった。

この式典のなかで謙造は

私は六一年目の新しい年から、これらの基盤の上に立ちまして、さらに次の時代の求めるものに向かって、本学園がより充実した教育を施す場となるよう、努めてまいる覚悟であります。

天はまだまだ私に休むことなく働くことを命じているようであります。あとに続くものあることを信じて、今しばらくこの好きな道を歩んでまいる所存であります。(式辞)

と決意を新たにしている。また、この式辞のなかには新たな計画が示唆されているように感じられた。

時代から求められた商業教育

昭和三〇年の後半から同四〇年代にかけて、村田学園に学ぶ学生・生徒が増加していった。村田簿記学校の体制は、専門的知識を修得した者に対する需要の高さとニーズに応えたものであった。

すなわち、本科(修業年限一年と二年)のほか、に附帯教育として速成科(同昼間部三ヶ月、夜間部四ヶ月)、専攻科(同昼夜間部とも二ヶ月)な

どを設けたことである。そのため近隣の大学からの入学者もあり、言わばダブルスクールとして学ぶ大学生も多かった。加えて知名度を高くするため、新聞の同じ個所の広告欄に毎日校名を掲載したり、山手線の全駅に看板を掲げるなど、的を射た広報活動を行っていた。その看板には次のように書かれており、その内容から特に目を引いたのであった。

「伝統に輝く・最高の権威 創立明治四二年 創立者 村田謙造」

これらの文言は、文部省が表彰状に記載して謙造に贈ったもので、謙造は「戴いた文言を素直に使用させてもらっているまでです」と答えている。この看板は、平成八年頃までお茶ノ水駅内の跨線橋に敢えて残されていた。

簿記会計の殿堂が誕生！

他方、村田女子商業高等学校は、施設・設備が決して満足とは言い難い小さな高等学校ではあったが、生徒に対する私学ならではの面倒見のよさが功を奏し、評判が口コミで伝えられたのも生徒増加の要因であった。

創立六〇周年後、村田簿記学校においてはまた



昭和34年頃の村田簿記学校看板

一つの計画が浮上し、具現化されていった。それは謙造が五〇周年を迎えた頃からの念願であった「簿記会計の知識・技能の普及のため、日本の中心となる殿堂を建立したい」というものであった。そこで、これまでの校舎を取り壊したうえ隣地約四三〇平方メートルを買収し、合わせて約七七〇平方メートルの土地に昭和四七年一月から新校舎の建築工事が始まった。新校舎は昭和四九年四月に落成し、延約五三〇〇平方メートルの地下一階、地上一〇階の堂々とした殿堂であった。創立六五周年の節目の年のことであった。

教魂燃焼

実務教育に捧げた六五年。村田謙造、逝去

昭和五〇年二月、謙造は風邪で身体の不調を訴え入院した。約一ヶ月の闘病生活で、一時は回復の兆しさえみせたが、三月二三日午後帰らぬ旅立ちとなってしまった。正に「巨星墜つ」である。村田照子は追悼集「有算者勝」のなかで、次のように記している。

自分の手で念願の校舎も完成し、そこに一

年間は通うことが出来たこと。天寿を終えるまで長いわずらいではなかったこと。如何に努力の人であったとしても、こんなにも自分の初志を貫徹できたなら、まれにみる果報者という言葉にふさわしいと思います。

学園葬は四月一五日、築地本願寺において厳かに執り行われた。なお、墓所は多磨霊園にある。

各種学校から「専修学校」へ

第二代理事長に就任した村田照子は、同時に村田簿記学校校長、村田女子商業高等学校校長兼務という重責を担いながら、学園発展の立役者として活動した。その原動力の一つが、昭和五年に公布された「専修学校設置基準」である。

明治の学制以来、学校は紆余曲折を経て法令上の地位を確立していくが、学制で「其他各種ノ学校トス」と定められた学校は、規模の如何を問わず家塾的な「各種学校」扱いでしかなかった。戦後の学校教育法ですら、「学校教育に類する教育を行うものは、これを各種学校とする」程度であった。しかし、各種学校の発展を受けて、ようやく昭和三二年に至り各種学校規程が定められ



昭和49年完成村田簿記学校校舎

た。すなわち、修業年限は一年以上（簡易な課程については三ヶ月以上一年未満）、授業時数は一年以上の場合は、一年間にわたり六八〇時間以上（一年未満の場合は修業期間に応じて減ずる）とし、またほかにも正規の学校規定が準用された。

各種学校の人気上がり（昭和五二年推定二〇〇校）、雨後のたけのこ的に生まれては消えていくなかで、伝統を守り真の教育の実現を意図する学校にとっては、さらなる地位向上が課題であった。昭和五一年になり、関係者の運動が実を結び「専修学校設置基準」が公布され、学校教育法における「専修学校」に一步踏み込んだ。それによると

○組織には一又は二以上の学科を置く。

○学科ごとに、授業時数は一年間にわたり八〇〇時間以上、夜間学科等でも一年間四五〇時間を下らない。

○一つの授業科目は、四〇人以下。

○高等学校における教育の基礎の上に、深く専門的な程度において専修学校の教育を施すにふさわしい授業科目の開設。

等々、組織編制、教科、教員、施設・設備など多方面にわたって細分化され規定されている。村田

簿記学校をはじめ規模の大きな各種学校は、このとき専修学校に昇格した。

専修学校には「高等課程」を設置することができた。高等課程とは、「中学校における教育の基礎の上に、心身の発達に応じて専修学校の教育を施すにふさわしい授業科目の開設」と謳われているとおり、中学校卒業後の進路先として設けられていた。村田簿記学校は、昭和五八年四月から「経理高等課程商業科（三年制）」を開設、教育の場をさらに広げたのであった。学校教育法第一二六条には、次のように記されている。

○高等課程を置く専修学校は、高等専修学校と称することができる。

○専門課程を置く専修学校は、専門学校と称することができる。

村田簿記学校は、これをもって二つの称号を得ることとなった。

高等課程の大学入学資格付与のために奔走

専修学校・各種学校の制度上の確立を望む声が多いなか、高等学校、短期大学、大学（学校教育法第一条）のように法的に認知されることで、教育機関としての独自性がうすれると危惧する向き



平成6年経理高等課程入学式

もあった。また、高等課程を設置している学校では共通の課題を抱えていた。三年制の高等課程を卒業しても、大学入学資格が付与されていなかったことである。やがて、この問題は「一定の要件を満たした学科」の卒業生に限り認められるようになり、村田簿記学校経理高等課程も昭和六〇年に大学入学資格指定校となった。この運動の急先鋒に立ったのは村田照子であった。

校内施設が拡充。急伸する村田学園

昭和四九年の新校舎落成以来、生々発展する村田学園の姿は輝かしいものであった。昭和五二年、白山通りをはさんだ村田簿記学校新校舎の正面にあるビルを取得し、のちに経理高等課程の校舎として利用された。また、昭和五六年に学生の就職活動の充実を図る目的でワン・イレブン館を開館、さらに昭和五七年には靖国通りに面した北沢ビル内のフロアを借り、商業実践室として村田簿記学校・村田女子商業高等学校の学生・生徒が活用したのち、急増する附帯教育、社会人教育の場となった。昭和六三年にも神田神保町一丁目にある風間ビルのフロアを借用し、学科の教室とさなる就職部の活動強化のための就職指導室など

が置かれた。

伸展する村田学園ではあったが、各校に運動場（グラウンド）を持っていないことが悩みの種であった。村田女子商業高等学校の場合を例に挙げれば、中庭的なものはあるにせよ、高校生が必要としている屋外での授業・部活動には、近くの印刷会社の運動場を借用していた。従って、体育祭などの大きな行事は公的な施設を使用せざるを得なかった。そんな折、総武線・地下鉄 西船橋駅 から徒歩一五分のところにある土地を入手でき、昭和五九年一月には、グラウンドを完備し、六六四六平方メートルの校舎が完成した。校舎は、普通教室のほか体育館、視聴覚教室、調理室、和室、多目的ホールなど贅を尽くした造りであり、生徒たちは目を見張った。「村田学園市川校舎」として誕生したこの校舎は、以後週一回学年ごとに移動して体育、家庭科などを中心に授業を展開した村田女子商業高等学校と、体育を基盤として授業を組み合わせた経理高等課程が主として使用した。また体育祭・卒業式なども挙行されたほか、この校舎の建設を機に学園全体の課外活動が飛躍的に充実していった。

昭和59年完成市川校舎



テープカット

創立七〇年目の挑戦

村田学園奨学金制度、発足

昭和五四年、村田学園は創立七〇周年を迎えていた。創立者が逝去されてから四年の歳月が流れてはいたが、理事長は盛大な記念式典や記念行事などを実行に移す意図はなかった。強い心組みでこの節目に臨んだことは、「奨学金制度の確立」であった。のちに照子は、次のように真情を述べている。

創立者は若い時いろいろと辛酸をなめたその体験から、自分の力の限りを尽くして学び、その努力を惜しまない学生には特に理解を示し、そして応援した。創立者を見習い、それを受け継ぐことも私に課せられた仕事の一つである。

こうして、「村田学園奨学金制度」が発足し、学園に学ぶ多くの学生・生徒がその恩沢に浴した。

ソロバンからOA機器へ

学園は、情報処理教育の重要性に早くから着目

していた。村田簿記学校を手始めに、昭和五五年にはオフィスコンピュータやワープロを導入し、オフコンを使った会計教育を開始した。昭和六一年にはワープロが、六二年にはパソコンが村田女子商業高等学校へも導入され、学園全体が情報処理教育に邁進した。その結果、昭和六一年には、パソコンを使った簿記学習用ソフト「MCA I」が、学園の英知と技術を結集して誕生した。パソコンがあればどこでも簿記を学べるこのソフトは、簿記の普及に画期的な役割を果たした。

隆盛を刻した創立八〇周年

記憶に残る記念式典を

元号が「平成」に変わった元年、村田学園は八〇周年を迎えた。学園内では昭和六二年から実行委員会を組織し、記念行事の企画・準備にあたってきた。学園の長い歴史のなかで、最も隆盛を極めた時代の象徴として有意義な記念の年に基づく、慎重に策が練られた。まず、学園に学ぶ学生・生徒および教職員等すべてが一堂に会する式典であること、参加者全員の記憶に残る斬新な構



MCAI完成発表会

想であること、また、この年の学校行事には「創立八〇周年記念」の冠をつけ、それにふさわしい計画を立てること、八〇周年記念誌の発刊などが決められた。

そして、平成元年の記念行事は次のように実施された。

村田簿記学校 専門課程

九月七日・八日 記念体育祭（市川校舎）

九月九日・一〇日 記念学園祭

村田簿記学校 高等課程

一〇月八日 記念体育祭（市川校舎）

村田女子商業高等学校

五月二八日 記念体育祭（都体育館）

一一月二日・三日 記念むらた祭

村田学園

一〇月一日 記念第三回全国珠算競技大会

（専修大学）

一〇月一七日 記念式典（日本武道館）

祝賀会（赤坂プリンスホテル）

一一月三日 創立八〇周年記念誌発行

日本武道館でウルトラクイズ

八〇周年を新たな決意の場として臨む記念式

典には、それにふさわしい内容が演出されていた。会場は、各種行事の殿堂として知られる日本武道館を選んだ。司会進行には高名な日本テレビの福留功男アナウンサーを招き、式は莊厳に執り行われた。

式典後のアトラクションとして、当時平均視聴率三四パーセントを誇った名物番組「アメリカ横断ウルトラクイズ」が行われた。村田版の模擬番組とは言え、本物のセットを運び込み、また、進行役の福留アナもそのままに、大いに会場を沸かせた。さらに佐藤菊夫指揮による東京管弦楽団による記念演奏会が華を添え、会場は楽しい雰囲気につつまれた。圧巻は「歓喜の歌（交響曲第九番）」の全員での合唱であった。

式辞のなかで照子理事長は、在校生に向けて次のように呼びかけた。

周年行事の式典とは、ただ過去を振り返り、これまでに努力された方々の功績を讃えることのみで終わることではありません。今日ただ今、皆さんが日々の学習の中で一日積み上げているそのことが、やがてふと立ち止まって顧みた時、自分の足跡として残り、やがて学園の歴史の中に組み込まれて、



80周年記念式典アトラクション

それが伝統と呼ばれ、受け継がれていくものと信じております。

東京経営短期大学、設立へ

創立八〇周年記念行事計画が進行していくなか、壮大な構想も練られていた。前年（昭和六三年）六月に開かれた学園理事会では、短期大学の設置が議決されたのである。その後着々と準備が進み、「東京経営短期大学」の名称で設置認可を得たのは、平成三年二月のことであった。場所は千葉県市川市で、これまで校舎として使用していた既設の建物に、教育研究棟（六三六七平方メートル）と食堂棟（四五二平方メートル）を新築し、さらにグラウンドを確保して短期大学を構築した。新校舎は平成四年二月に竣工、同年四月には経営情報学科一八六名の新入生を迎え入れた。さらに平成八年四月には学科増設を行い、「経営税務学科」を新設、夜間コースと合わせてこの学科には一六二名が入学した。

村田簿記学校においては校舎が神保町交差点を中心に点在し、学生に周知させる必要から建物に番号を付け分かりやすくした。すなわち

昭和四九年完成の一〇階建てビル―一号館

昭和五二年取得の八階建てビル―二号館
昭和三一年取得の五階建てビル―三号館

平成三年取得の三階建てビル―別館

である。ほかには市川市高谷に「村田学園市川セミナーセンター」が平成三年九月に完成した。セミナーセンターは、東西線原木中山駅から徒歩一〇分のところにあり、三階建てのしゅうしやな建物であった。教職員の研修と社会人教育の場として、利用価値は非常に大きかった。

村田女子商業高等学校改名、そして移転

東京経営短期大学が開学し、五年間一貫教育を視野に入れた村田女子商業高等学校は、短期大学の知名度を高めることなどの相乗効果を上げるため、平成八年校名を「東京経営短大村田女子高等学校」と改めた。しかし、教育水準を向上させ、よりよい環境を整備しても、建物自体が老朽化してしまえば目標達成は困難になる。当時の村田学園の課題は、昭和三六年に完成した高等学校校舎への対処であった。新築計画には財政問題は避けられず、計画をすぐ実行に移すのは無理な状況と思われた。そんな折、文京区から土地の等価交換の話が持ち込まれた。理事会や一般教職員からの

開学披露パーティー

東京経営短期大学 開学披露の集い



平成4年完成
東京経営短期大学校舎



議論百出の末、小石川から本駒込の地への移転が決定され、新校舎建設の目論見が立てられた。新校舎（延建坪約七三六七平方メートル）が落成し、移転が完了したのは平成一年三月のこと、くしくも学園創立九〇周年の年であった。

文京区本駒込は由緒ある土地である。周辺は、駒込村の名主をつとめた旧家「駒込名主屋敷」や、柳沢出羽守保明の中屋敷として造られ昭和一三年に都の公園として公開された庭園「六義園」、さらに大正六年に設立された東洋学の専門図書館である「東洋文庫」などで知られている。現在は、小学校、都立高校、文京グリーンコートと呼ばれるコーナーにある高層オフィスビル、高層住宅ビルなどが隣接している。

創立九〇周年 地域密着の教育を目指して

村田学園創立九〇周年記念式典は、平成一年四月二七日、東京経営短大村田女子高等学校体育館で挙行された。八〇周年のそれと比べると質素な感はあるが、そこには一つの考えがあった。新しい学校は、地域に溶け込んでこそ真の教育ができるという思いから、地域住民に校舎を開放し、村田学園の教育に対する理解を深めて

もらうなどの意図である。当日は多数の住民を含め、三〇〇名を越す参加者で盛大な式典となった。

世界に門戸を広げる「留学生別科」開設

東京経営短期大学、村田簿記学校ともに外国人留学生を受け入れている。特に東京経営短期大学では、年々増加する傾向にあった。留学生は入国後半年ないしは一年間日本語学校で学び、その後上級学校を受験する。ならば日本語を教える科を併設したら、との考慮のち平成一二年四月「留学生別科」を開設した。この科は、日本語と日本事情などを学ばせることが主体であり、そのため施設は利用するものの、短期大学の教育課程とは関連のない、全くの別科であった。

高等学校に普通科新設

平成一三年から同二〇年にかけて、東京経営短大村田女子高等学校は、これまでの実績を活かして教育内容をさらに強化していった。それまで商業科のみであったが、世の中の進学志向の高まりに伴う普通科希望者の増加を受け、平成一三年四月「普通科」を併設した。しかし、商業科は就職



平成11年完成高等学校校舎

のためのみではなく、進学を望む生徒にも充分対応ができており、また、普通科においても希望する生徒に対しては、各種検定試験を受験して資格取得に取り組むことができる環境も整備された。

中高一貫教育を——村田学園小石川女子中学校開校

普通科が誕生したのち、学園では続いての計画が段階を追って進行していた。中学校の新設である。平成一〇年に学校教育法が改正され、同一年には中高一貫教育を行う学校（中高一貫校）の設置が可能になった。この年以降、併設校、連携校としての中学校が一貫校へと変成していった。

村田学園は、平成二〇年四月遅蒔きながら「村田学園小石川女子中学校」を、高等学校の施設内に開設した。この中学校には、一貫校としての今後に期待が寄せられている。中学校が発足する前年、東京経営短大村田女子高等学校は短期大学の冠を取り、「村田女子高等学校」と改称した。

落花、枝にかえらず

村田照子 永遠の旅へ

平成一八年六月一九日、第二代理事長村田照子が逝去された。一報を受けた学園関係者は、誰しも誤報であることを願ったほど信じ難いことであつた。年齢的な「老い」は避けられないにせよ、常々元気に過ごしていた姿からは想像も及ばない出来事であつた。

平成一六年六月、村田照子は敢えて村田簿記学校第七代校長に就任した。すでに村田簿記学校が隆盛を極めた時代は去り、終焉が近づきつつあつた。照子は就任直後、「父は開く（開校）役目を果たし、娘の私は閉じる（閉校）役目を果たす」と語っていた。

平成一八年秋、「村田照子先生を偲ぶ会」が生前よく利用していたホテル・グランドパレスで開催された。当日は予想をはるかに越えた参加者で、献花の列は絶えることはなかった。照子はいま、父謙造と同じ村田家の墓所で眠っている。



平成18年9月「村田照子先生を偲ぶ会」

新村田学園発足

東京経営短期大学は、平成一八年三月末をもって留学生別科を閉鎖した。所期の目的は達せられたとの判断ではあったが、学園内のあらゆる削減の波が押し寄せた結果でもあった。この年四月に亀田光昭が第五代学長に就任した。就任して二ヶ月余で村田照子が急逝し、間もなく第三代理事長に選出された。新理事長の信念は、「これまで培ってきた『村田』の灯を消してはならない」であった。村田学園に新風が吹き込まれることを期待しながら、新村田学園は新たなスタートを切った。それは平成一八年六月のことであった。

押し寄せる少子化・ハイテク化の波

村田学園が財政困難に陥る予兆は、八〇周年を迎えた頃より、経営陣のみならず学園関係者の間にも広がっていた。学園の本丸である村田簿記学校への入学者が少なくなるであろうことは、全国的に一八歳人口が年を追って減少していく厳しい現実が示していたからである。さらに技能を磨くことや資格取得の重要性を誰もが認めてはいたが、その対象がビジネス系から調理系、フアツ

ション系、看護系、福祉系へと移行していく風潮にも影響された。また、学園は当時短期大学の開校を控え、この事業を成功させるべく集中努力を重ねていた。

村田簿記学校が時代の要請を先取りし、コンピュータの経理への応用や情報処理教育に着手したのは昭和五五年であった。昭和六〇年以降、徐々にワープロからパソコンに重点が移り、経理の知識に加えて情報処理を学ぶ学科は学生には魅力的であった。パソコンの生産量を見ても、昭和六〇年は約一九三万台（平成一二年、約一一八七万台）で、当時はまだパソコンの技術習得という目的もあった。パソコンが急速に発展した結果、情報処理やパソコンを主とした学科を設置する専門学校、各種学校が増加、競合する状態となった。

速すぎたIT化の影で

パソコンが家庭に普及し、平成一三年発表の「二〇〇五年までに世界最先端のIT国家となる」旨の国家戦略の後押しもあって、平成一八年にはインターネット人口は国民の約五七パーセントに達している。



村田簿記学校入学案内

その過程で、学生が興味を示したものはアニメーション、ゲーム、コンピュータグラフィックスなどの技術であった。また、パソコンはますます進歩し、学校設備でも常に最新型の設置が求められた。しかし、学校経営上巨資を投じて機器を入れ替える余裕はなかった。

教職員が一丸となり学内を改革

平成七年頃より、村田簿記学校は経費削減、節減にそれまで以上に取り組むことになる。学内改革の断行と、同時に新入生の確保の手立てを念頭に置き、教職員一人ひとりの任務を遂行していた。教員は積極的に高校訪問や進学相談会に参加し、広報活動に力を入れた。一流広告代理店に依頼して「学校案内」を作製するほか、高校生に配布される「情報誌」にも予算のゆるす限り参画した。

ビジネス系（分類上は商業実務関係）の学校における広報活動には、大きな課題があった。世の中のあらゆる宣伝媒体は、視覚に訴える手法が主流となり、「一目瞭然」の必要性があった。高校生に対しても、細かな説明や的確なキャッチフレーズでもアピールは難しかった。写真や絵を見

るのみで学校の内容を理解させるという点では、ビジネス系は不利な立場であった。特に税理士、会計士や簿記・会計、経理などはもとと地味なもので、静止画には向いていないと言える。

学生・時代との大きな溝

商業実務関係の専門課程を置く専修学校での学生募集が、年毎に困難になっていく状態を統計からも知ることができる。学校基本調査によれば、平成七年度の卒業生は全国で六万五六九名に対し、平成一二年度は三万一九一六名と約四七パーセント減少、また、学校数も平成八年度八二八校であったが、平成一三年度までに二二八校が閉校している（下表参照）。学校数が少なくなっているのは、専修学校・各種学校が学校教育法一条で示す学校（小・中・高校や大学など）ではないため、都道府県の助成が得られないのも一因である。村田学園は私立学校法上の学校法人ではあるが、公的資金が導入されるのは高等学校と短期大学で、村田簿記学校にまでは至っていない。

また、従来は都内へ通学していた学生が、横浜、大宮、千葉などの近郊に新設された専門学校や分校に吸収され、都心への流入が妨げられた点

全国専修学校商業実務関係（専門課程）の推移

	学校数	卒業者数	村田簿記学校 卒業者数
平成8年度	828	52,596	356
平成9年度	811	47,032	342
平成10年度	752	41,423	291
平成11年度	699	35,260	230
平成12年度	634	31,916	138

も見逃せない。村田簿記学校の近県への進出に対しては深い考慮が払われてはいたが、実現の運びとはならなかった。

村田簿記学校、終幕

人員削減、配置転換などを含め徹底的な合理化を図ってきた村田簿記学校ではあったが、事態は思うに任せず、平成一三年一号館、別館を閉館、不動産の売却に踏み切った。すでに平成二年には三号館を売却しており、残った二号館を改修して授業を続行した。のち平成一七年には市川セミナーセンターも売却している。

平成一六年五月、村田簿記学校は次年度からの学生募集停止を決定した。従ってこの年度の学生が巣立てば完全閉鎖となる。一抹の不安と寂しい思いを胸に授業に臨んでいた、と教員の一人は語っている。

平成一七年三月七日、産経プラザにおいて最後の卒業式が挙行された。卒業生五五名を前に村田照子校長は式辞で

この学校で学び、蓄えた力をあらゆる面で充分発揮できるように、常に自分に自信を持って「やってみせるぞ」という気持ちを最

も大切にしながら、社会で活躍してほしいと期待している。

との励ましの言葉を贈った。その必要性がなかったとは言え、微妙な立場に置かれた村田簿記学校への言及を避けた胸中はいかばかりか、察するに余りある式辞であった。

しかし、照子の心にはある思いがあった。自ら設立に大きく関与した東京経営短期大学への村田簿記学校、村田女子高等学校からの教職員の異動であった。それにより、専修学校と短期大学は全く異質なものという一般論に対し、それぞれの特色を活かしての「融合」が可能であることを実証したいと考えたからである。この宿願は、自身が短期大学学長に就任した折に確信に至ったのであった。そこには村田学園の精神が脈々と波打っていたからである。

社会人に開かれた専門学校村田経営義塾

村田簿記学校が最後の卒業生を送り出したのち、二号館は東京経営短期大学「神保町キャンパス」として生まれ変わった。

短期大学の税理士を目指す「特進クラス」は、卒業後も続けて学ぶことができるように配慮した



村田経営義塾校舎

クラスである。特に会計事務所などに就職してからの税理士試験の受験勉強に対応する講座を夜間に設け、通学の利便性を広げた。神保町キャンパスは、このような意図で開設された。

短期大学生を対象とした各種の講座は、その方向性においては村田簿記学校と共通する部分が多かった。そこで一般の人にも門戸を開放する意味から、夜間の専門学校をキャンパス内に設置した。「専門学校村田経営義塾」として、再び「村田」の灯が点つたのである。平成一九年四月のことであった。

専門学校村田経営義塾の特色は、企業の後継者の育成であった。そのため、経理専門課程経営者養成科（二年制・一年制）として発足した。夜間の開講はダブルスクールの意図を含んでいた。

未来への余韻を残し、村田経営義塾閉校

短期大学と共有する部分が多いとは言え、専門学校として独自の採算性を確保するには相当の困難が予想された。それは偏に学生募集に拘わる問題であった。あらゆる手立てを講じ知名度を高め、教育内容を理解させても、学生確保に直結するものではなかった。平成二〇年度の応募状況を

判断した結果、同二一年度からの経営は困難との結論に達し、やむ無く閉鎖を決定した。

平成二一年三月一二日、二年間存在した専門学校村田経営義塾の卒業式が学び舎で行われた。この日、二年制・一年制それぞれ二名の学生が巣立っていった。小さな式典ではあったが、未来への余韻を残したものであった。そして平成二一年一〇月をもって、専門学校村田経営義塾は閉校となった。

しかし、この校舎では短期大学の会計税務コース（特進クラス）の授業とその卒業生のための夜間プログラムが、現在も短期大学エクステンションセンターにより続けられている。

また外部からの委託事業については、引き続き村田学園の名前で受託し、開講されている。

来たる百周年に向けた新たな布石

平成一九年一〇月、学園発展に最も貢献した初代理事長、第二代理事長の業績を称え、また、村田学園百年の歴史を振り返ることができる「村田記念館」が開館した。両理事長にかかわる遺品、記念品をはじめ、村田学園を知るための資料など数百点が展示されている。東京経営短期大学で、



村田経営義塾入学案内

かつて照子が熱心に執務していた理事長室とそれに続く応接室を改装したものである。

また、学園百周年記念事業である「市川グラウンドの整備」が平成二十一年五月に完了した。人工芝を敷きつめた全天候型となり、すでに設置されていた夜間照明装置とあわせて終日快適に利用できるところになった。

銀行会社事務員養成所の小さな私塾から、

三二万名に及ぶ卒業生を輩出した大きな学園へと成長した村田学園の長い歴史のなかで培った実績は、高等学校と短期大学で受け継いでいる。

百周年を迎え、記念事業が進められている。それは次の百年に向けての布石であり、学園発展に寄与するところが大である。

*参考文献

- 佐藤順一・大田忠男編「教育制度」学文社 一九九五年
尾崎ムゲン「日本の教育改革」中央公論新社 一九九九年
大橋信定ほか編「現代商業教育論」税務経理協会 一九九一年
村田学園「有算者勝」村田学園 一九七八年
村田学園「創立八十周年記念誌」村田学園 一九八九年
小学館「万有百科大事典・日本歴史」小学館 一九七三年

村田学園百年史年表

村田学園関係の出来事

明治

1908	41年3月	村田謙造「村田式計算器」創案・発表
1909	42年11月3日	村田謙造「銀行会社事務員養成所」を東京市神田区一ツ橋通町20番地（現在、千代田区一ツ橋2丁目6―5）に創立

大正

1913	2年5月6月	「第1回村田珠算競技大会」開催 「村田速算学校」併設
1919	8年	創立一〇周年
1921	10年4月	銀行会社事務員養成所を神田区仲猿楽町17番地に新築移転し、校名を「村田簿記学校」と改め開校
1923	12年9月	関東大震災により校舎焼失
1924	13年10月	神田区仲猿楽町17番地に木造2階建て校舎建設

昭和

1929	4年11月	創立二〇周年 神田区仲猿楽町1番地（現在、千代田区神田神保町2丁目14）に3階建て校舎建設
------	-------	--

一般の出来事

- 第一次世界大戦勃発（1914）
- 日本、国際連盟に加盟（1920）
- 関東大震災（1923）
- ラジオ放送開始（1925）
- 初の普通選挙実施（1928）
- 世界恐慌起こる（1929）

1931	6年3月6日	「村田女子計理学校」併設 校長に村田謙造就任
1933	8年4月	「村田女子計理学校」東京府より乙種として認可
1937	12年6月	村田簿記学校、隣家より出火し、校舎類焼
	7月	校舎復旧
	8月15日	「第100回村田珠算競技大会」開催
1939	14年	創立三〇周年
	1月	村田女子計理学校 小石川区久堅町98番地（現在、文京区小石川5丁目40-18）に新築移転
1940	15年6月	紀元二千六百年の記念事業として、村田女子計理学校に講堂兼道場「貞風館」を完成 全国で初めて女学校に剣道を導入
1943	18年2月	組織を財団法人とする
		村田女子計理学校 文部省認可の甲種女子商業学校に昇格
		「村田女子商業学校」と改称
1945	20年4月14日	村田簿記学校校舎 空襲で焼失
	5月25日	村田女子商業学校校舎 空襲で焼失
		村田簿記学校は西片町の校長宅を開放、村田女子商業学校は本郷真砂町の工場跡の倉庫を借り授業再開
1947	22年1月	村田簿記学校 校舎を被災地に再建
1948	23年3月	学制改革により「財団法人村田学園」を「学校法人村田学園」と改組 村田女子商業学校は「村田学園高等学校」と改称
	4月	村田学園高等学校を被災地に再建
1949	24年	創立四〇周年
1951	26年4月	「村田学園高等学校」を「村田女子商業高等学校」と改称

満州事変勃発（1931）
 内田外相、国際連盟脱退を通告（1933）
 二・二六事件（1936）
 文化勲章制定／日中戦争始まる（1937）
 第二次世界大戦勃発（1939）
 日独伊三国同盟調印／大政翼賛会発会（1940）
 日ソ中立条約調印／太平洋戦争勃発（1941）
 日本軍ガダルカナル撤退（1943）
 東京大空襲／広島・長崎に原爆投下／ポツダム宣言受諾（1945）
 日本国憲法公布／財閥解体／農地改革（1946）
 教育基本法・学校教育法公布。六・三・三・四制実施（1947）
 極東軍事裁判判決下る（1948）
 湯川秀樹ノーベル物理学賞受賞（1949）
 朝鮮戦争勃発（1950）
 日米安全保障条約調印／国際労働機構（ILO）加盟（1951）
 NHKテレビ放送開始（1953）

1953	28年4月	村田女子商業高等学校の校舎増築
1955	30年4月	村田女子商業高等学校の校舎増築
1956	31年4月	村田女子商業高等学校の校舎増築
1957	32年4月	千代田区神田神保町1丁目11番地に地下1階、地上5階のビル取得、村田簿記学校の拠点とする
1959	34年	村田女子商業高等学校の校舎増築 創立五〇周年
	9月13日	「村田学園創立五〇周年記念全国珠算競技大会」開催（於、専修大学）
	11月10日	創立五〇周年記念式典（於、共立講堂）学園讃歌制定 「五十年の歩み」刊行
1961	36年1月30日	村田女子商業高等学校の創立三〇周年を記念した地下1階、地上4階鉄筋コンクリート校舎が文京区小石川5丁目40-18に完成
	10月5日	同、第2期工事完成
1963	38年3月	村田簿記学校 千代田区神田神保町2丁目14番地に地下1階、地上5階鉄筋コンクリート校舎完成 村田第二簿記学校設置
	8月	群馬県吾妻郡長野原町大桑に村田学園グラウンド完成
1964	39年3月12日	村田女子商業高等学校 鉄筋3階建て体育館完成
1965	40年7月15日	「村田学園北軽井沢高原寮」が群馬県吾妻郡長野原町大桑に完成
1967	42年4月	村田女子商業高等学校校舎5階部分増築
1969	44年	創立六〇周年

第五福竜丸、ビキニ水爆実験で被災（1954）

日本国連加盟／南極観測隊宗谷出發（1956）

一万円札発行（1958）
皇太子（現天皇）ご成婚／伊勢湾台風（1959）

日米新安全保障条約調印／カラーテレビ本放送開始（1960）

ケネディ米大統領暗殺（1963）

東京オリンピック開催／東海道新幹線開業（1964）

中国文化大革命起こる／朝永振一郎ノーベル物理学賞受賞（1965）

川端康成ノーベル文学賞受賞（1968）
東名高速道路が全線開通／アポロ11号月面着陸

1984	59年11月28日	千葉県市川市二俣625番地1に村田学園「市川校舎」「総
1983	58年4月	村田簿記学校経理高等課程開設
1982	57年4月	村田簿記学校 千代田区神田神保町2丁目5番地北沢ビル内に「北沢館」開館
1981	56年10月12日	村田簿記学校「ワン・イレブン館」開館
1979	54年4月	創立七〇周年を記念して「村田学園奨学金制度」を制定、適用開始
1977	52年7月10月	故村田謙造三回忌にあたり、追悼集「有算者勝」刊行 千代田区神田神保町1丁目14番地の地下1階、地上8階のビルを取得 村田簿記学校2号館とする
1976	51年9月4月15日	村田簿記学校 学校教育法に基づく専修学校として認可を受ける 故村田謙造 学園葬（於、築地本願寺）
1975	50年3月23日4月1日	村田謙造逝去 村田照子、村田学園理事長・村田簿記学校校長・村田女子商業高等学校校長に就任
1974	49年4月1日	村田簿記学校 千代田区神田神保町2丁目14番地に地下1階、地上10階鉄筋コンクリート校舎完成 拠点をここに移す
	10月9日	創立六〇周年記念式典（於、共立講堂） 「六十年の歩み」刊行
	10月5日	「村田学園創立六〇周年記念第2回全国珠算競技大会」開催（於、専修大学）

（1969）

日本万国博覧会開催（1970）

沖縄返還協定調印（1971）

札幌冬季オリンピック開催／沖縄県本土復帰／上野動物園でパンダ初公開（1972）

江崎玲於奈ノーベル物理学賞受賞／金大中事件起こる（1973）

東京国立博物館でモナ・リザ展開催（1974）

専修学校法成立（1975）

ロッキード事件（1976）

王貞治、756本目のホームラン世界記録を達成、初の「国民栄誉賞」を受賞（1977）

米、スリーマイル島原子力発電所で放射能漏れ事故発生（1979）

モスクワオリンピック開催、日本は参加ボイコット（1980）

中国残留日本人孤児、初の正式来日／福井謙一ノーベル化学賞受賞（1981）

五百円硬貨発行（1982）

東京ディズニーランド開園（1983）

1985	60年10月28日	合グラウンド」完成
1986	61年3月20日	村田簿記学校経理高等課程、大学入学資格文部大臣指定校となる
1986	61年3月20日	わが国初のコンピュータによる簿記学習ソフト「MCAI・入門編・3級編」完成
1988	63年1月	村田簿記学校 千代田区神田神保町1丁目34番地風間ビル内に「風間館」開館
平成		
1989	元年	創立八〇周年
	10月1日	「村田学園創立八〇周年記念第3回全国珠算競技大会」開催（於、専修大学）
	10月17日	創立八〇周年記念式典（於、日本武道館）
	11月3日	「村田学園八十周年記念誌」刊行
1990	2年6月	村田簿記学校3号館およびワン・イレブン館閉館
1991	3年7月	千代田区神保町2丁目12-1に3階建てビル取得 村田簿記学校「別館」とする
	9月	市川市高谷1丁目11-13に3階建て「村田学園市川セミナーセンター」完成
1992	4年2月10日	市川市二俣625-1に新校舎完成
	4月1日	村田学園「東京経営短期大学（経営情報学科）」開学 学長に大山政雄就任
1994	6年4月1日	東京経営短期大学第2代学長に齋藤力夫就任

日航機御巣鷹山に墜落（1985）

男女雇用機会均等法施行（1986）

国鉄分割・民営化、JRに／利根川進ノーベル医学生理学賞を受賞（1987）

昭和天皇崩御／消費税導入／天安門事件勃発（1989）

ドイツ再統一／バブル崩壊始まる（1990）

湾岸戦争勃発／新東京都庁舎が開庁／ソビエト連邦崩壊（1991）

皇太子ご成婚（1993）

関西国際空港開港／松本サリン事件／大江健三郎

第一章 村田学園のあゆみ

2005	17年3月	村田学園市川セミナーセンター閉鎖
2004	16年5月	村田簿記学校第7代校長に村田照子再々任
	6月1日	村田簿記学校第6代校長に堀居英治就任
	8月1日	東京経営短大村田女子高等学校に「普通科」併設
	4月1日	村田簿記学校別館閉鎖
	4月1日	村田簿記学校2号館に移転
2001	13年3月	村田簿記学校第5代校長に村田照子再任
	4月1日	東京経営短期大学「留学生別科」併設
2000	12年3月	村田簿記学校北沢館閉鎖
	4月	創立九〇周年
	4月27日	創立九〇周年記念式典（於、東京経営短大村田女子高等学校）
	6月	村田簿記学校第4代校長に西尾康三就任
1999	11年3月	東京経営短大村田女子高等学校 文京区本駒込2丁目29-1に新築移転
	6月1日	東京経営短期大学に「経営税務学科」増設
1998	10年4月1日	村田簿記学校第3代校長に藤井禰和就任
1996	8年4月1日	村田簿記学校 風間館閉鎖
	12月	村田女子商業高等学校を「東京経営短大村田女子高等学校」と改称

ノーベル文学賞受賞（1994）

阪神・淡路大震災／地下鉄サリン事件（1995）

世界初のクロン羊「ドリー」誕生（1996）

消費税3%から5%に／サッカー日本代表、W杯初出場を決める（1997）

郵便番号7桁化／長野オリンピック開催／明石海峡大橋開通（1998）

欧州連合に加盟する11か国でユーロ導入（1999）

二千円札発行（2000）

9・11アメリカ同時多発テロ／ユニバーサルスタジオジャパン開園／東京デイズニースー開園（2001）

田中耕一ノーベル化学賞受賞／小柴昌俊ノーベル物理学賞受賞（2002）

個人情報保護法成立（2003）

自衛隊イラク派遣開始／北朝鮮拉致被害者5人が帰国／新潟県中越地震（2004）

4月1日	東京経営短期大学第4代学長に大橋信定就任
9月1日	東京経営短大村田女子高等学校第3代校長に伊藤淑子就任
2006年3月	東京経営短期大学留学生別科閉鎖
4月1日	東京経営短期大学第5代学長に亀田光昭就任
6月19日	村田照子逝去
6月20日	第3代理事長に亀田光昭就任
9月2日	「村田照子先生を偲ぶ会」開催（於、グラランドパレス）
2007年4月1日	東京経営短大村田女子高等学校を「村田女子高等学校」と改称
10月	村田簿記学校を「専門学校村田経営義塾（夜間部経理専門課程経営者養成科）」と改称し再開 校長に亀田光昭就任 東京経営短期大学内に「村田記念館」開館
2008年4月1日	「村田学園小石川女子中学校」を村田女子高等学校に併設 校長に伊藤淑子就任
2009年21年	創立百周年 創立百周年記念事業「市川グラウンド整備」に伴うグラウンド開き 7月5日 10月 専門学校村田経営義塾閉校 11月2日 創立百周年記念式典（於、グラランドパレス） 11月3日 「村田学園百周年記念誌」刊行

愛知で日本国際博覧会「愛・地球博」開催（2005）

野球のWBC第1回大会優勝（2006）

郵政民営化スタート（2007）

洞爺湖サミット開催／南部陽一郎、小林誠、益川敏英ノーベル物理学賞受賞／下村脩ノーベル化学賞受賞（2008）

新型インフルエンザ発生／米、オバマ大統領就任／民主党政権誕生（2009）